富洲原地区　自治会と旧町名 案内図

天カ須賀連合自治会

1. 住吉町
2. 港町
3. 南町
4. 本町
5. 常盤町
6. 寺町
7. 中町
8. 江戸町
9. 岩戸町
10. 北町第一
11. 北町第二
12. 北町第三
13. 島崎町
14. 富洲園
15. LM富洲原NC壱番館
16. LM富洲原NC弐番館
17. LM富洲原NC参番館
18. GS富洲原

おおよその位置は、地図上の天カ須賀連合自治会エリア（緑色の部分）内の番号をご参照ください。

松原連合自治会

1. 茶ノ水町
2. 西元町
3. 東洋町
4. 緑町
5. 千歳町
6. 錦町
7. 新栄町
8. 東平町
9. 西平町
10. 東八風町
11. 西八風町
12. 本松町
13. 東松武町
14. 西松武町
15. 松ケ枝町
16. 松原サニーハイツ

おおよその位置は、地図上の松原連合自治会エリア（ピンク色の部分）内の番号をご参照ください。

富田一色連合自治会

1. 旭町
2. 港町
3. 北町
4. 七軒本町
5. 中町
6. 広小路町
7. 寺町
8. 新町
9. 南町
10. 堺町
11. 八軒町
12. 蛭子町
13. 大黒町
14. 布袋町
15. 弁天町
16. 江戸町
17. 豊富町第一
18. 豊富町第二
19. 甚五兵衛町

おおよその位置は、地図上の富田一色連合自治会エリア（青色の部分）内の番号をご参照ください。

富洲原の自治会と旧町名

現在、地区内には富田一色、天カ須賀、松原の各連合自治会組織のもと、計53の単位自治会があり、住民に最も身近なコミュニティとして地域の生活を支えています。各自治会は、災害時の助け合いをはじめ、高齢社会への対応や子どもの見守りなど、さまざまな地域課題の解決に向けて活動しています。

その多くは、新たに住宅開発された所や集合住宅などを除き、自治会の名称に旧町名を用いています。なかでも、港町、南町、北町、中町、寺町、江戸町は富田一色にも天カ須賀にも存在し、また、富田一色には七福神のうち4人の神に由来する自治会名があります。

富洲原地区の概要

古くは漁師まちとして発展し今なお古い街並みが残る富田一色、半農半漁のまちから一転し宅地造成が進み人口が急増した天カ須賀、かつては東洋紡績で発展し現在は大型ショッピングセンターが立地する松原の三つの地域で構成される富洲原地区は、四日市市の東北端に位置し、面積2.04㎢、人口8,734人（平成31年3月1日現在）の市内で最もコンパクトな街です。地区内中央には、市民センターをはじめ児童館や公立の保育園、幼稚園、小学校が立地、北部には中学校が立地するというように、公立の保幼小中各1校（園）ずつが設置されています。また、三つの地域それぞれに公会堂が設けられており、松原公園や天カ須賀公園、二つの海浜緑地、水と緑のせせらぎ広場などの公園も多く点在し、在宅介護支援センターや医療機関などの施設も充実したとても住みよい街です。

さらに、南北に国道1号及び23号、東西に八風街道（主要地方道四日市多度線）が地区内を通り、自主運行バス山城富洲原線も運行しており、加えて、近鉄川越富洲原駅やJR富田駅からも近距離にあるといったとても交通の便のよい環境にあります。

「富洲原」の地名の起源

朝明郡の「富田一色村・天ケ須賀村・松原村」の3村が合併し、富田一色村の「富」、天ケ須賀村の「洲（須）」、松原村の「原」の3字をとって、「三重県朝明郡富洲原村」が誕生したのは、明治22年（1889年）のことです。

富田一色の「富田」の意味は、一説には「飛田」で、古代史で有名な「日本武尊白鳥伝説」で生まれた地名といわれ、「一色」は分村である「居敷」の意味で、先祖の人たちが「富田村」より移住してつくった集落と伝えられています。

天ケ須賀の「須賀」とは「洲陸・洲処」で、引き潮で海辺が洲となるところ、自然と陸地となった地域のことです。「天ケ」は「天野の人々」のことで、「南北朝時代」に河内国の「天野郷（大阪府南河内郡）」出身の人々が住み着いた「海辺の村」を意味する地名と伝えられています。

松原の地名は、奈良時代、当地に「聖武天皇」が行幸された際に読まれた和歌「妹に恋い吾の松原見渡せば、潮干の潟に田鶴鳴き渡る（万葉集）」の「吾の松原」にちなんだ地名と伝えられています。

明治29年（1896年）に「朝明郡」は「三重郡」と合併し、大正12年（1923年）に町制を施行、昭和16年（1941年）には四日市市と合併して今日に至ります。

昭和40年（1965年）に実施された「新住居表示制度」のもとで、地区名の「富洲原」の表示は現行のままとし、新しく誕生した町名は「富州原」と「洲」を当用漢字の「州」に代え、「天カ須賀」と「ケ」を「カ」に代えて使用するよう各界の申し合わせにて決められたとのことです。

参考：地区広報「とみすはら」No.38（平成12年3月20日発行）

富洲原地区のシンボルマーク

昭和56年、富洲原地区市民センターの庁舎竣工を記念し、住民の皆さんからデザインを公募し決定されたものです。「前進・向上と親睦」をテーマに、富洲原の片仮名表記の「ト」を基にデザイン化され、富田一色・天カ須賀・松原の三つの地域と「くらし」「まなび」「ふれあい」を三つの輪にして、絶えず未来に向かい前進し続ける富洲原であれとの願いが込められています。

平成31年3月作成
●富洲原地区まちづくり推進協議会（歴史部会）　●富洲原地区社会福祉協議会（ホームページ委員会）
●富洲原地区市民センター